

序 話 二二世紀、人類の知は「七つの成熟」を遂げていく

『田坂広志 二二世紀を語る』シリーズ三部作の第一作、『田坂広志「二二世紀の資本主義」を語る』では、二二世紀における資本主義の成熟と進化のビジョンを語った。

そして、第二作、『田坂広志「二二世紀の経営」を語る』では、二二世紀における企業経営の成熟と進化のビジョンを語った。

そこで、シリーズの第三作の本書では、資本主義や企業経営、さらには、民主主義や社会生活の根底にある、我々一人一人の「知の在り方」の成熟と進化について、そのビジョンを語ろう。

では、これから、我々の「知の在り方」は、どう変わっていくのか。

どう変わっていかなければならないのか。

どのように成熟を遂げていかなければならないのか。

そのことを、本書では、「人類の知 七つの成熟」として述べていこう。

まず、この序話では、その全体像を示しておくが、それは、次の「七つの成熟」である。

- 第一の成熟 「言語の知」から「暗黙の知」へ
- 第二の成熟 「分析の知」から「統合の知」へ
- 第三の成熟 「個人の知」から「集合の知」へ
- 第四の成熟 「管理の知」から「創発の知」へ
- 第五の成熟 「理論の知」から「行動の知」へ
- 第六の成熟 「理性の知」から「感性の知」へ
- 第七の成熟 「知能の知」から「知性の知」へ

各話での説明に入る前に、冒頭、それぞれの意味を、短く述べておこう。

第一は、「言語の知」から「暗黙の知」への成熟。

これからの高度情報革命の時代においては、「言葉で表せる知識を用いる能力」だけでなく、「言葉で表せない智慧を用いる能力」が重要になっていく。

第二は、「分析の知」から「統合の知」への成熟。

これからの高度知識社会においては、「専門分野の知識と智慧を獲得する能力」だけでなく、「異分野の知識と智慧を統合する能力」が重要になっていく。

第三は、「個人の知」から「集合の知」への成熟。

これからのネット革命が深化する時代においては、「個人の知識や智慧を生かす能力」だけでなく、「集団の知識や智慧を引き出す能力」が重要になっていく。

第四は、「管理の知」から「創発の知」への成熟。

これからの複雑系社会においては、「既に世の中に存在する知識や智慧を活用する能力」だけでなく、「未だ世の中に存在しない知識や智慧の創発を促す能力」が重要になっていく。

第五は、「理論の知」から「行動の知」への成熟。

これからの変革が常態化する時代においては、「知識や智慧を用いて理論を生み出す能力」だけでなく、「知識や智慧を用いて行動を生み出す能力」が重要になっていく。

第六は、「理性の知」から「感性の知」への成熟。

これからの高度な直観が求められる時代においては、「理性を使って考える能力」だけでなく、「感性を使って感じる能力」が重要になっていく。

第七は、「知能の知」から「知性の知」への成熟。

これからの解決困難な諸問題が山積する時代においては、「問題に正確な答えを出す能力」だけでなく、「答えの無い問いを問う能力」が重要になっていく。

それでは、次話から、それぞれの意味を、さらに詳しく述べていこう